

○ 大学側、企業側の両方に課題があり、歩み寄りが必要。

	出会い・きっかけ	計画立案～連携開始	体制づくり	プロジェクト管理
研究大学 × 大企業	<大学・企業側> ◆ 関係固定化の懸念	<大学・企業側> ◆ 目標・分担が曖昧 ◆ 契約内容の調整(成果帰属等)が長期化 ◆ 大型テーマになりがち	<大学・企業側> ◆ 多人数・分野横断でコミットメントが低い ◆ トップの意向が末端レベルまで浸透せず	<大学・企業側> ◆ 大規模研究にもかかわらずPMが不十分 ◆ 成果の評価が不十分のまま研究継続
研究大学 × 中小企業	<大学側> ◆ 相手を知らない <企業側> ◆ 大学の敷居が高い ◆ テーマ(レベル)のミスマッチ	<大学・企業側> ◆ 時間軸・規模感・相場感の違い <企業側> ◆ 契約事務が煩雑で企業が敬遠	<大学側> ◆ 小規模のため担当教員の関心が薄れがち	<大学側> ◆ 教員の個人的関心に引きずられがち
その他大学 × 大企業	<大学側> ◆ 商品となるシーズ不足 ◆ 教員個人頼みの接点	<大学側> ◆ 企業有利な契約条件を受入れがち ◆ 企業の下請的な扱いの場合も	<大学側> ◆ 教員個人対応のため対応分野に限界 ◆ 組織的支援がなく教員の負荷状況に左右	<大学側> ◆ 組織的支援がなく、教員の能力に依存 ◆ 企業側の(硬直的)対応に引きずられがち
その他大学 × 中小企業	<大学・企業側> ◆ お互いを知らない ◆ 相手を探す余裕がない	<大学・企業側> ◆ 組織的なサポートがなく契約外(手弁当)になりがち	<大学・企業側> ◆ 産学双方リソース不足で研究規模が小粒	<大学・企業側> ◆ 教員、企業担当の個人的関係に依存

・出典: 図 3-256 大学・企業属性による産学連携パターンで区分した課題

・出所) 経済産業省大学連携推進課『企業の規模と大学の属性から見た産学連携の課題とこれを乗り越えた取組事例』(2008)を基に三菱総合研究所が加工。